栗谷町小栗林・大栗林地区
小栗林の六地蔵
小栗林の薬師堂
床松地蔵
後原
大竹市飛地
小栗林
大栗林
安桑寺四国八十八ケ所縮尺霊場
安桑寺の門前のお地蔵さん
耕中石（大石）
瑞照寺の薬師如来像
瑞照寺の延命地蔵
大栗林の六地蔵
新西国三十三番霊場
下場の歯痛地蔵
栗谷町
大下（おおしも）の地蔵
能行
沖窪
能行の首なし地蔵
沖窪の地蔵
行者山の石仏
釜原
釜ヶ原
下原

大下（おおしも）の地蔵

所在地　大竹市栗谷町小栗林
像　高　三十一㎝
彫刻の形式　丸彫り坐像
石の種類　花崗岩

小栗林地区の東のはずれ玖島川に大下橋がかかる。この橋の手前約五十ｍのところの山裾に、地蔵菩薩が祀られている。

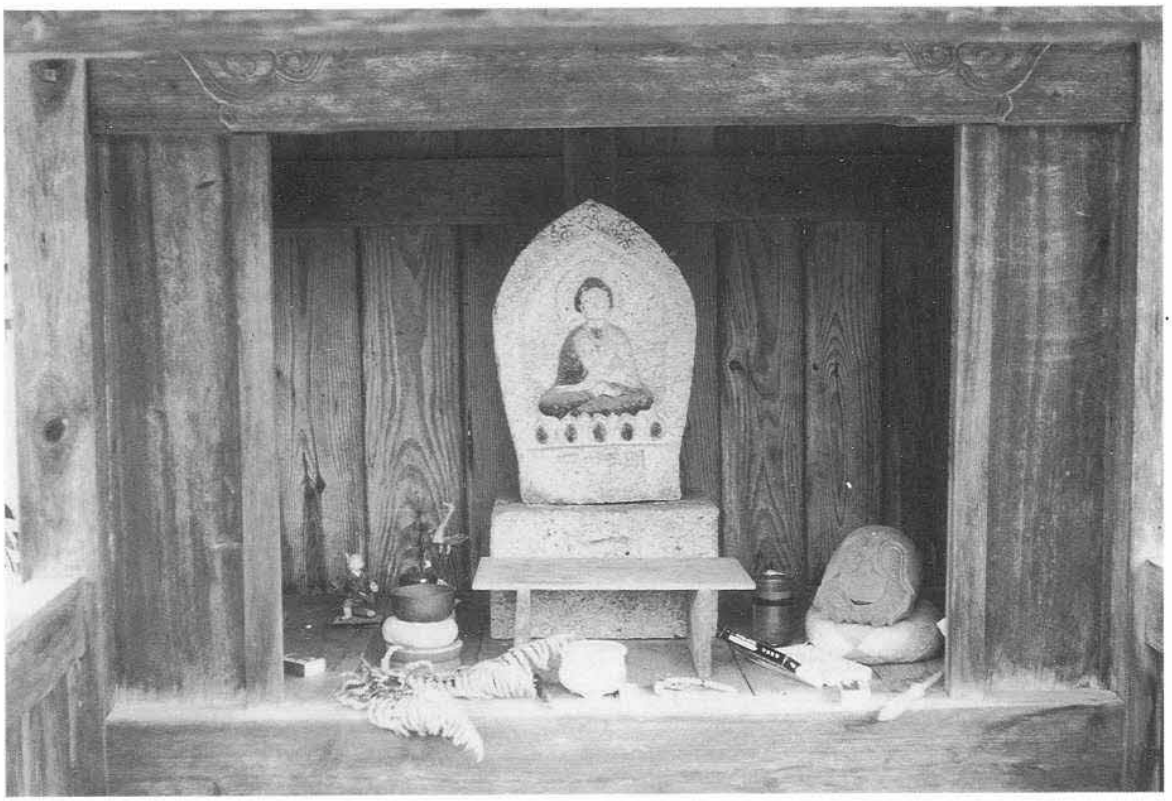
この地蔵さんは、大正時代までは大下橋のたもとに座しておられたが、昭和に入り土橋がコンクリート橋になった時、少し移動し、三度目は橋のたもとから小栗林側に約五十ｍほど移動した。現在では昭和六十三年の県道改修工事のため、少し高い所に移されて、四度目にしてようやく落ち着いておられる。

この地蔵さんは村境を守るという役目と共に、歯痛や子供の夜泣きによくきくといわれており、お供え物が絶えない。

耕中石（大石）

所在地　大竹市栗谷町小栗林
自然石　高さ　約二m〇〇cm
　　幅　約四m六十cm
　　奥行　約三m〇〇cm
石の種類　花崗岩

小栗林の田園の中に座っていることから、これを耕中石という。
地元では、通称大石と呼んでいて、遠い昔のこと天地鳴動して三倉岳の頂上から転げ落ちてきたものだといわれている。
また、この石は栗谷地区に古くから伝わる「お坊池」の伝説にかかわりがある。
その昔、諸国行脚の修行僧が目の不自由を押して、三倉の山裾まで辿り着き、浅原へ向かう道「札ケ峠」を尋ねたところ、地元の人が三倉を指差して向かわせたことから、あの険しい三倉岳に迷いこみ、頂上北側の沼地にはまり死んでいったといわれる。
今もこの沼地を「お坊池」と呼んでいる。
そして、亡者の修行僧が呪いの逆琵琶を弾いたため、たたりが村中に押し寄せたものと思い、南の布ケ岳から白い布をこの耕中石まで伸ばして縛り着け、そこから更に三倉岳山頂まで、千丈の布を引いて供養したら、たたりがなくなったといわれる。
今もこの「耕中石」にあがると、たちまちその人にたたりがあり、周囲の農作物も害を受けると信じられ、御幣をたてて祀られている。
かつては、不思議なことにこの石には、山にあるすべての種類の木が生えていたといわれている。



小栗林（こくりばし）の薬師堂

所在地　大竹市栗谷町小栗林
像　高　四十㎝
彫刻の形式　舟型浮彫り
石の種類　花崗岩　彩色

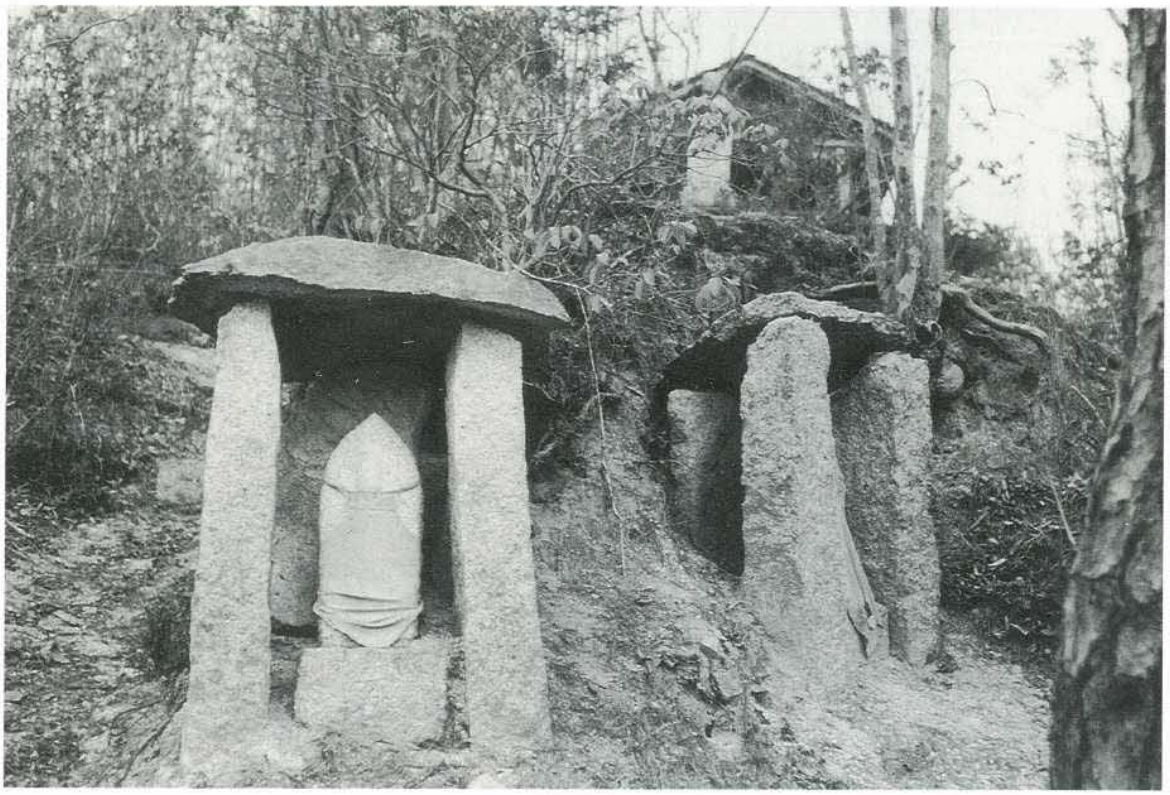
明治三十六年、小栗林の信者が島根県一畑薬師からお札を受けて帰り、同年四月に現在の位置より南に薬師如来に彩色を施し建立された。しかし、度重なる洪水のため現在地に移し、今でも地域信仰の場になっている。

薬師如来は、目やその他の難病に効くといわれる。別名「医王如来」ともいう。

薬師如来

右手に施無畏印を結び、左手に薬壺（やくこ）を持ち、病を除いてくれる仏として親しまれている。

わが国に仏教伝来とともに熱烈な信仰を受け、天武天皇六八一年皇后の病気平癒のため薬師寺建立を発願し、持統天皇六九七年薬師寺を完成すると、薬師如来を安置され広まった。



安楽寺四国八十八ヶ所縮尺霊場

所　在　地　大竹市栗谷町小栗林
彫刻の形式　舟型浮彫り石仏群
石の種類　花崗岩

江戸後期に入り、民衆の中に石仏信仰が急速に高まり、栗谷地域でも各村々に建立が見られるようになる。

小栗林でも、文政十年（一八二七）乙亥七月、安楽寺裏山を一回りする経路で、四国八十八ヶ所霊場のミニ版として、花崗岩製の舟型浮彫りの石仏を配している。

石仏自体の作りは必ずしも優れているとはいえないが、その「祠」に特色がある。

この地域の大地は、「広島型花崗岩」の層におおわれているから、その花崗岩を無造作に割り、柱や屋根として祠を作りあげている。

山頂には、第五十九番の薬師如来丸彫り立像がある。この寄進は、中世中国一円を征覇していた大内義隆の文臣相良遠江守藤原春忠の子孫、十二代相良九右エ門春口とあり、今も歴史の断片を伝えている。

また、当時の大和尚「桂巌」の寄進した仏像もある。

安楽寺・門前の「お地蔵さん」

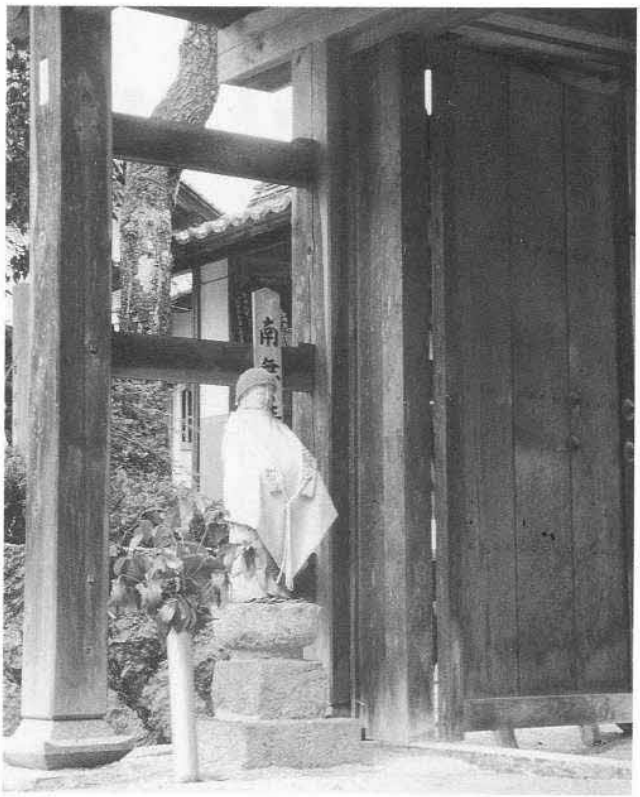
所　在　地　大竹市栗谷町小栗林
像　　高　六十二㎝
彫刻の形式　丸彫り立像
石の種類　花崗岩

同寺は雲林山と号し、汗馬ケ垰の山裾に位置し、四国八十八ケ所ミニ霊場を裏山にもつ禅宗寺院である。
開基も中世に遡る古い寺である。この寺の山門入口右側に、通称「お地蔵さん」がおられる。
死者の霊を供養し、また寺院を守る地蔵さんとして、お参りする人々の心をやすらげてくれている。

瑞照寺の延命地蔵

所　在　地　大竹市栗谷町大栗林
像　　高　六十三㎝
彫刻の形式　丸彫り立像
石の種類　花崗岩

同寺は、安養山と号し、近郊の山間部禅宗寺院によく見られる山門を配し、寺院を大自然の中に溶けこませている。
この山門の入口左側に、延命地蔵は祀られている。
人間がいつまでも健康で長くこの世に生きとし生けることを、済度しているようである。



小栗林共同墓地の六地蔵

所在地　大竹市栗谷町小栗林
像　高　右から一番　四十二㎝
　　二番　四十一㎝
　　三番　三十九㎝　四番　四十一㎝
　　五番　四十二㎝　六番　四十二㎝
彫刻の形式　舟型浮彫り　別石
石の種類　花崗岩

大栗林の共同墓地の六地蔵

所在地　大竹市栗谷町大栗林
像　高　右から一番四十二、五㎝
　　二番四十六、五㎝
　　三番四十四㎝
　　四番四十四、五㎝
　　五番四十四㎝
　　六番四十六、五㎝
彫刻の形式　舟型浮彫り別石
石の種類　花崗岩

栗谷地区では、大栗林の瑞照寺境内の共同墓地と小栗林の共同墓地の入り口に、六地蔵がある。

よく見ると顔、姿が少しずつ異なっているのが、六地蔵の特徴である。

持物や印相により像形が異なり、いずれのお地蔵さんかを知ることができる。

地持地蔵　両手で数珠を持つ
陀羅尼地蔵　右手施無畏印、左手引接印
宝性地蔵　合掌する
鶏亀地蔵　右手宝珠　左手錫杖
法惟地蔵　柄香炉を持つ
法印地蔵　両手で幢(旗)を持つ

如意輪観音

聖観音

千手観音

不空羂索観音

標　石

准胝観音

十一面観音

馬頭観音

大栗林（おおくりばやし）の新西国三十三番霊場

所　在　地　大竹市栗谷町大栗林
像　　高　七十二～百十六㎝　三十三軀
彫刻の形式　自然石　浮彫り
石の種類　花崗岩

曹洞宗瑞照寺、裏山にある観音霊場は、天保四年十月地域の人たちの手により開かれたもので、七観音（聖観音・千手千眼観音・十一面観音・如意輪観音・馬頭観音・准胝観音・不空羂索観音）すべてを巡拝することができる。

ここの石仏は、小瀬川流域大栗林能行付近の河原の自然石を寄進者がもち帰り、石工の手にゆだね、浮き彫り彫刻したものである。

高度な技術と心をこめた作りは、信仰の対象とともに、造形的にも素晴らしいものである。

瑞照寺境内の霊場由緒を記した石柱には、次のように刻まれている。

維時　天保第四龍次癸己　小春十八日
小方住　石工　松五郎作
現　瑞照寺七世　亮堂謹記

年号の書き方が面白く、天保三年が龍（辰）の年であるので、四年の癸己の前に「龍次」と書かれている。また、小春は陰暦の十月にあたる。

本場西国三十三番霊場

平安後期京都に住んでいる人たちが、観音信仰で知られる寺々に参詣して御利益を得ようとする信仰から出発。室町時代に入り盛大に流行しはじめ、心のやすらぎを求めようとする純粋な気持ちが民衆のなかに根ざし、後に江戸中期には西国巡礼の案内書が出版されている。

江戸後期に入り、全国的に観音、地蔵信仰が広まり、各地にミニ霊場が作られていった。

不動明王

蔵王権現

役の行者

行者山の石仏

所在地　大竹市栗谷町大栗林
像高　役の行者　五十七㎝
　　蔵王権現　五十五㎝
　　不動明王　五十一㎝
彫刻の形式　舟型浮き彫り
石の種類　花崗岩

瑞照寺裏山新三十三番霊場のところから南に稜線づたいに約三十分登ると巨大な一枚岩が目の前をおおう。この岩の上が行者山の頂上である。かつて曹洞宗瑞照寺に五、六名の修業僧がいて、この行者山で行をしていたと伝えられている。

この岩場は広く三軀の石仏を祀る。北側の端には、三倉岳に向かって立つ役の行者、中央に蔵王権現、南側に不動明王が約五m離れて、共に北東の方向に向って立っておられる。

この修験場がいつの時代から開かれたかはわからない。

天気の良い日には、三倉岳、瓦小屋山の素晴らしい眺めが目の前にひらけ、また中国山脈を遠望できるところである。

台座に刻まれた文字

役の行者の台座

施主当所　松前庄二郎　平岡玄務

不動明王・蔵王権現の台座

宇十郎兵衛　開祖　中原智昇

瑞照寺の薬師如来

所在地　大竹市栗谷町大栗林
像　高　四十一㎝
彫刻の形式　丸彫り坐像
石の種類　花崗岩

曹洞宗瑞照寺境内にある薬師如来像は、三倉岳を背に豊かな景観の中に座している。
目の病に効くといわれているが、造形美的にも素晴らしい石仏である。

床松地蔵

所在地　大竹市栗谷町大栗林
像　高　地蔵菩薩坐像　三十五㎝
彫刻の形式　丸彫り坐像
石の種類　花崗岩

像　高　如意輪観音菩薩坐像　三十八㎝
彫刻の形式　丸彫り坐像
石の種類　砂岩

栗谷盆地の中央を、東から蛇行しながら西に向って流れる玖島川をはさんで、かつて小栗林と大栗林の村境に、この地区の字名をとって呼ばれていた「床松の渡し」があった。ここは川幅が狭く、飛び石を置いて渡っていたといわれる。

この地域特有の花崗岩の割り石で作られた祠に、二軀の石仏が祀られている。

左の一軀は、如意輪観音菩薩像で、地元の人の話によると、明治末期のころ、現在の山口県玖珂郡美和町大田原から、大栗林の岡崎辰次という人がもらい受けたという。

右の地蔵菩薩像と共に、割り石づくりの祠に祀られている。

ここにも村境を守る石仏信仰があり、地域の人々により香花は絶えない。

下場（しもじょう）の歯痛地蔵

所　在　地　大竹市栗谷町大栗林字下場
像　　高　三十六㎝
彫刻の形式　丸彫り坐像
石の種類　花崗岩

大栗林下場地区の中ほどの民家の敷地内に、一枚岩があり、この上に地蔵さんは祀られている。

全国には、色々な名のついた地蔵尊がある、その中で、「咳止め地蔵」「虫歯地蔵」のように身体の一部の患いのために御利益がある、専門医のようなお地蔵さんの仲間である。

この地蔵尊はその名の通り歯の痛みがとれると地元の人はいう。

台座に「慶応四年　世話人辰蔵　石工庄祐」と刻まれている。このように、石仏に石工名が刻まれているのはまれである。

沖窪（おきのくぼ）の地蔵

所　在　地　大竹市栗谷町大栗林字平野
像　　高　四十二㎝
彫刻の形式　丸彫り立像
石の種類　凝灰岩

国道一八六号線蛇喰磐の手前を大栗林に向って右折すると、三倉岳を遠望できる格好の場所となる。そこに、木造りの祠があり地蔵菩薩がおられる。

明治時代に、沖窪の住人の一人が目を患い、歩行も困難な状態にもかかわらず、友を支えに島根県一畑薬師にお参りした。

お陰で目が見えるようになり、帰りの道は人の手を借りずに歩くことができ、そのご恩返しにこの地蔵菩薩を祀ったといわれる。

能行（のうぎょう）の首なし地蔵

所　在　地　大竹市栗谷町大栗林能行
像　　高　五十七、五㎝
彫刻の種類　丸彫り立像
石の種類　花崗岩

国道一八六号線を、蛇喰磐から約二〇〇mいった所の右手にあり、通称「首なし地蔵」と呼んでいる。

この地蔵さんは、かつては小瀬川沿いの竹藪の中にあったもので、昭和二十六年のルース台風により押し流され、首の部分が折れ、行方がわからなくなったといわれる。

その後、現在地に移し、色合・大きさの似た石をセメントで継ぎ合わせたもので、「首なし地蔵」といわれている。

台座に、「法界」と文字が刻まれている。

法界（ほっかい）

仏の教えが行き渡っている世界。

「ほうかい」とも読むことが出来るが、正しくは「ほっかい」と読む。